

総合的な学習の時間の授業の課題

- 1 単元の指導計画に体験活動を位置付けているが、体験することが目的となっていて、「探究的な学習」になっていない授業が見られます。
- 2 図書館やインターネット等で調べた内容を模造紙等へ書き写すだけの活動にとどまっており、言語により整理したり、分析したりする活動になっていない授業が見られます。
- 3 活動の感想を述べ合うだけの学習にとどまっており、次の課題設定につながる学習になっていない授業が見られます。

授業改善のための取組として（案）

□ 探究的な学習となるよう、単元の指導計画に4つの学習過程を位置付け、単元を構成しましょう。

- 単元導入前に、小学校でどのような学習を行ってきたかを把握し、学習活動に生かす。
- 探究的な学習の充実を図るために、次の4つの学習過程を位置付ける。
 - ① 課題の設定—既習事項の想起や外部講師を活用する。
 - ② 情報の収集—ねらいや目的を明確にして行う。
 - ③ 整理・分析—他教科等で身に付けたことを生かす。
 - ④ まとめ・表現—発表を通して今後の自分の課題や目標について考えを深める。
- 一連の学習活動を通して新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるなど、探究的な学習を何度も繰り返すことができるようにする。

□ 「整理・分析」の学習過程では、自分の考えを述べる際に他教科等で学習したまとめ方を活用するなどして、思考する学習活動の充実を図りましょう。

- 集計結果などの数値化された情報は、折れ線グラフや円グラフ、ヒストグラムなどを用いて「整理・分析」する。
- インタビューなどの言語化された情報は、カードや年表、地図などを用いて「整理・分析」する。
- ◆ 「整理・分析」については、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（平成22年11月 文部科学省）31ページ参照 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300534.htm

□ 「まとめ・表現」の学習過程では、発表するだけで活動が終わることがないように、振り返りや自己評価等の充実を図りましょう。

- 自分の生活や行動、学んだことの意味や価値について振り返ることができるよう「振り返りカード」を作成する。
【自分の言葉】では、興味をもった課題への理解が、探究的な学習をとおして深まったことを実感できるようにする。
【先生からの一言等】では、学び方やものの考え方が身に付いたことを認めるとともに、新たな探究的な学習への意欲を高めるようにする。